

出張報告

報告日 令和6年8月5日

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮 直人
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	研修参加
日 時	令和6年7月25日14:00 ~ 令和6年7月26日17:00
場 所	第一イン池袋「アゼリア」（東京都）
調査項目等	
概 要	1. 地方議会・議員と行政評価（7月25日14:00～17:00） （1）議会としての行政評価 ① 市区町村での行政評価（主に事務事業評価）は60％程度 ② A行政が実施する評価への直接関与、B行政が実施した評価の活用、C議会による独自評価の3形式有り。「A」は行政評価のあり方に関与する（例えば第3者評価を求めるなど）こと。当市はCに該当する。 ③ 評価業務の限界、住民の無関心、議員自身へのメリット不明などあり。議員としてどう評価に向き合うべきか （2）議員としての行政評価 ① 目的は有権者からの信頼獲得、エビデンスの獲得、選挙への活用。 ・議員としても数値的、科学的なアプローチが必要、自らの実績の信頼獲得に役立てる。とはいえやらなくても議員活動はできる。 ・今後有権者は文系的な言語情報と合わせデータを重視してくる。文系理系融合した評価が必要。早い者勝ち。実情を数字で考える。 ・地方自治体や総務省などの統計データの活用から始める。Google フォームを活用して自らデータを集めることは可能。 ② 入手データの活用 ・データの特徴をざっくりつかむ：平均値、最頻値、分散、最大値、中央値、最小値など。TQM ツールの活用。 ・比較分析：事前事後比較モデル、時系列モデル、マッチングモデル、回帰・分断モデル ・原因分析：樹形図、ステークホルダー分析、SWOT 分析、実行可能性分析、 ・効果分析：ロジック・モデリング

2. まちづくり、ローカル起業を促進できる中間支援組織のあり方とは
(7月26日10:00~13:00)

(1) 地域づくりを促進する中間支援組織とは

① 地域を取り巻く状況の変遷

・50 戦後復興と経済成長→60 高度成長と都市集中→70 環境問題と地域格差→80 バブル経済と地方創生→90 バブル崩壊と地域再生→00 地方分権と地方創生→10 持続可能な地域づくり→20 コロナ、デジタル活用、災害対応（地域の強靱化）

(2) 地域づくりに求められていること

- ① 経済中心から経済+社会+環境の相互作用拡大へ、製造業から ICT & サービスへ、国の全国一律サービスから地域間競争+地域独自の解へ、女性・移住者・外国人・障がい者・高齢者の活躍へ、地域や企業による地域基盤から地域への思いを軸とした基盤へ
- ② 均質、大量、効率、集中、単方向から共感できることへの投資へ

(3) 中間支援組織に求められること

- ① 地域社会の課題を解決するために活動団体や行政などの連携を促進する機関。
- ② 役割はネットワーク、コーディネート、人材育成、情報提供、資金調達支援、政策提言

3. 議員・議会職員のためのファシリテーション講座
(7月26日14:00~17:00)

(1) 双方向コミュニケーションのために

- ① ファシリテーションとは：参加者が話しやすい場をつくり話し合いを円滑に進める。全員で協力して話し合いの目的を達成できるように進める力。
- ② 潜在化している声に着目し引き出すために、安心できる場と役に立つ場をつくる。

(2) 住民との関係構築、信頼獲得に必要な対話

- ① 否定されないし聞いてもらえる、不利益が生じないし立場が悪くならない、事前の説明があるし事後の報告がある。
- ② 対話する（議論や雑談ではない）
 - ・テーマに対して、共通のルールのもとで、お互いの考えを聴きあい、相互理解を深める。
- ③ 結論を急がない
 - ・多様な考えの人が一気にはまとまらない。結論を急がない。
 - ・まずは聴き、一緒に考え悩む姿勢をもつ

	(3) ファシリテーターに求められること ① プロセスをつくる ・情報共有（目的、背景、状況、ゴール） ・ブレインストーミングと層別 ・分析評価（絞り込む） ・アイデア出し ・結論、意思決定 ② ファシリテーターのヒント ・導入時は経験したことから話してもらう ・意見が無い人、興味が無い人にも「なぜ？」で確認する ・アイデア出しは目標アイデア数などを提示する ・合意形成できたこと（人）とできなかったこと（人）を明確にする。合意形成のゴールは100%一致ではない。
所 感 等	1. 行政評価についての所感 行政評価について当市でいう「事務事業評価」が行われているのが全国の県市区町村で8.8%との説明があり想定より少ない。その理由が1（1）③で記した通りで、自分自身感じていることだった。毎年の行政評価の実感として、1年前の前年度実績を評価したところで鮮度が低く、議会から評価コメントをだしても当該年度の状況と相違があるのではないかと。やはり当該年度の進行状況を評価し次年度予算編成につなげていく仕組みが必要ではないか（民間では当たり前だが）。その意味で当市のデジタル予算書に期待したい。 また、議会や議員によるデータを使った行政評価の必要性についての説明があった。個人的には一般質問等の根拠として柏崎市や新潟県、総務省の経済データや統計データを使い、時系列分析や相関分析をしてきた。行政当局とも情報共有してきた。今回の研修内容を参考に更にデータ活用を進めていきたい。 2. 中間支援組織について 説明の前段にあった「地域を取り巻く状況の変遷」が参考になった。どうしても現在にとらわれ過去を忘れがちになるが、過去からの経緯があって現在に至っているわけで、その変遷をしっかりと認識して考えていきたい。 当市においても「まちから」を中心に社会課題の解決について思いを一つにする方々で熱心に話し合われていると聞く。参加してみたい。 3. ファシリテーションについて 先般、何名かの議員で意見交換会の振り返りをした。期待する意見交換ができていないのかという声もあったが、議員のファシリテーション力の不足が原因ではないかと思う。市民からでた意見や中には陳情めいたもの、苦情に

	聞こえるものもある。意見、陳情、苦情の背景にある事実やエピソードを聞き出し、メンバーで共感することを試行してみたい。
--	--